

番号	5 - 9	申請者	看護師 山田 智美
【審査申請課題】 開口障害を有する患者に対する口腔ケアの実践－開口促しによる効果－			
【審査課題の概要】 神経筋難病患者は、疾患の進行に伴い筋緊張が亢進することにより、噛みしめなどの症状が見られることがある。例えば、脊髄小脳変性症は、上肢の運動機能障害、構音障害が代表的な症状である。また、歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症では、てんかんやミオクローヌスと呼ばれる不随意運動を示す症例が多く、遅発成人型では、舞蹈病様不随意運動が加わる。それらの症状により開口困難へつながり、適切な口腔ケアが困難な状況が生じることがある。 南2病棟は神経筋難病病棟で、経管栄養の患者がほとんどだが、誤嚥性肺炎を繰り返し発症する患者が多い。そのため、口腔内の保湿、唾液や痰、舌苔の除去を日々の口腔ケアで行っている。しかし、疾患の影響により筋緊張による噛みしめなどがあり、患者の開口が困難なことがある。そのため、患者によっては歯の前面のみをスポンジブラシでふき取る口腔ケアしか行えておらず、適切な口腔ケアの実施が困難な状況がある。 先行研究では、重症心身障害、脳梗塞発症後の開口障害がある患者に対する研究は行われていたが、神経難病患者に対する研究が行われているものは少なかった。しかし、脳梗塞発症後の開口障害のある患者に対し、手指を使用した開口方法やK-point刺激法が行われていた。他疾患患者に対しては適切な口腔ケアを実施し、肺炎予防が行えたという結果が出ているものもあり、神経難病患者に対しても同じように肺炎予防に効果が期待できるのではないかと考えた。 本研究では、患者の状態に応じた開口促しの方法を取り入れ、適切な口腔ケアを行うことで口腔内環境の改善につなげることを明らかにするために取り組んでいく。さらに誤嚥性肺炎の予防に向けての考察も行い患者ケアの向上に綱出していきたいと考える。			
審査結果	承認 (令和5年5月11日)		